

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

討議年月日：令和3年12月 10日

公表：令和3年 12月 16日

事業所名ゴットオフラيف西尾桜木校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	●		壁及びカーテンで間切りをしている	
	2	職員の配置数は適切である	●		法令を遵守した配置を行っている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		●	バリアフリー化できていない	バリアフリー化に向けて、設備等の再検討を行っていく
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している		●	定期的に会議を行い振り返ることで、適切な目標を設定することが出来ています。	その都度、職員同士で話し合う機会を設けていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		●	行っている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している		●	行っている。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		●	行えていない	第3者評価の導入に向けて、検討を行っていく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	●		オンラインの研修を活用している（海外のもの）	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	●		通訳を通じて、児童発達管理責任者が行えるようにしている	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	●		通訳を通じて、児童発達管理責任者が行えるようにしている	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	●		定例会議にて、お互いがアイデアを出している	

適切な支援の提供	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	●		定例会議にて、お互いがアイデアを出している	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	●		定例会議にて、お互いがアイデアを出している	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	●		通訳を通じて、児童発達管理責任者が行えるようにしている	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	●		開所時にミーティングを実施	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	●		支援終了後に実施	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	●		支援終了後に実施	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	●		原則、児童発達支援管理責任者とスタッフリーダーが連携して支援を行う。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	●		行っている。	利用者支援と保護者支援と地域支援をバランスよく行い、ご利用者様の発達の向上に努めている
関係機関や保護者と	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	●		原則、児童発達支援管理責任者が参加している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	●		通訳を通じて、児童発達支援管理責任者と指導員が協力して行えるようにしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		●	できていない	左記、受け入れができる体制を構築できるように努力をおこなう。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		●	電話で定期的に連携を行っている	児童発達支援管理責任者が電話だけではなく、定期的な連携会議を行えるように努力を行う。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	●		原則、児童発達支援管理責任者が電話や訪問で連携を行う。	

の 連 携	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	●		定期的に電話にて助言を受けている。	左記、開催の研修などに積極的に参加する体制を構築する。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		●	行えていない	左記と連携時に、交流する環境を整えていくよう、働きかけを行う。
	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	●		児童発達支援管理責任者が会議への参加を行っている。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	●		ご自宅への送迎時や、保護者面談を通じて行っている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	●		土曜日に随時実施している。	
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	●		保護者様との利用契約締結時に実施している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	●		初利用日当日までに必ず説明および同意をいただいている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		●	原則、土曜日に開催している。	父母の会や保護者会などを積極的に開催するようにする
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	●		随時、対応を行っている	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		●	日々の連絡帳にて記載を行っている	会報などを作成し、ポルトガル語などにおいて、周知を行うことを目指す。
	35	個人情報に十分注意している	●		行えている	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	●		通訳を通じて、児童発達管理責任者が行えるようにしている	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		●	行えていない	地域の方が気軽に参加できるような行事を企画立案し、行えるようにする。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	●		マニュアルを整備し、年二回以上の避難訓練などを実施している。	ポルトガル語のマニュアルの整備を進めていく。

非常時等の対応	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	●		マニュアルを整備し、年二回以上の避難訓練などを実施している。	ポルトガル語のマニュアルの整備を進めていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	●		市町村等が開催する外部研修に積極的に参加している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		●	身体拘束の実績がない	左記、身体拘束マニュアルを作成し、どんな場合においても対応ができるように整備していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	●		受け入れ時にアセスメントを行っている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		●	事例集としては作成ができていない	左記、過去の事例や外部の事例を参考にしたマニュアルの整備を進めていく。